

事例番号:270164

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第三部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 4 日 6:20 陣痛開始のため入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 4 日 8:46 経膈分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 4 日

(2) 出生時体重:3065g

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:pH7.414、PCO₂34.7mmHg、PO₂60.0mmHg、HCO₃⁻
21.9mmol/L、BE-2.6mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 7 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 4 ヶ月 健診にて未定頸、あやし笑い、追視なし、小児科受診
一般生化学、染色体、アミノ酸、有機酸分析:異常なし

生後 10 ヶ月 痙攣あり、ウェスト症候群と診断

生後 2 歳 脳波検査:ヒプスアリスミアを呈する所見あり

(7) 頭部画像所見:

生後 4 ヶ月 頭部 MRI:「髄鞘化遅延、白質容量減少」

生後 10 ヶ月 頭部 MRI:「髄鞘化遅延なし、白質容量減少軽度」

6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

産科医 1 名、助産師 1 名、看護師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

脳性麻痺発症の原因は、ウェスト症候群の可能性が高いが、ウェスト症候群の病因は、不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 入院後及び分娩中の管理は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

出生後の管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

胎児心拍数陣痛図の記録速度を 3cm/分に設定することが望まれる。

【解説】産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」では、胎児心拍数波形のより適確な判読のために、胎児心拍数陣痛図の記録速度を 3cm/分とすることが推奨されている。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

なし。